2 参加青年による事業評価

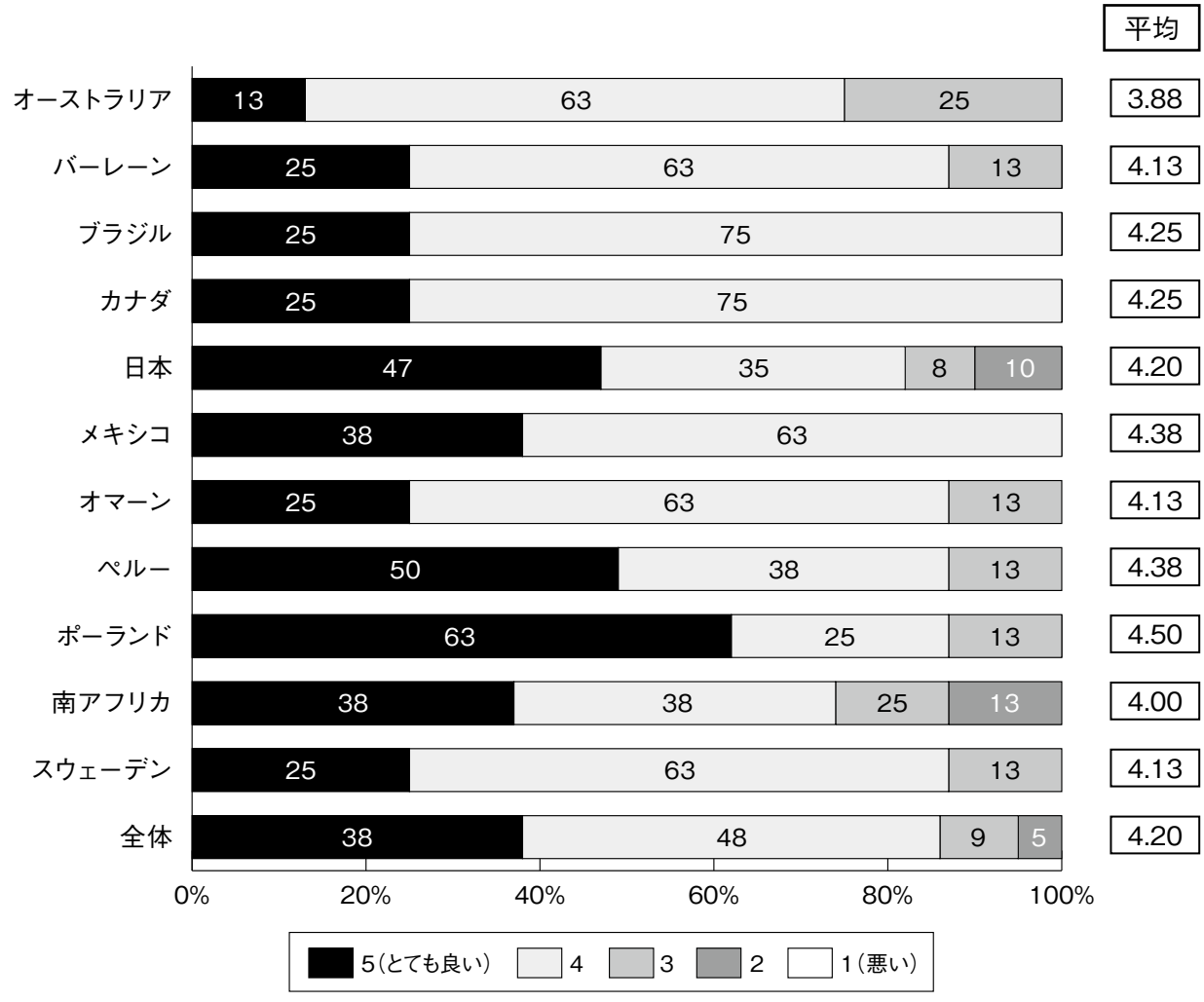
参加者に対して、オンライン交流・仮想空間における交流終了時（令和４年12月28日）及び対面交流終了時（令和５年２月20日）に事業評価アンケートを実施した。集計結果は次の通り。

注：対象は全参加青年、オンライン交流・仮想空間における交流終了時は135名、対面交流終了時は131名。
　値は小数第一位で四捨五入されている。
　統計処理上、合計が100%にならないことがある。

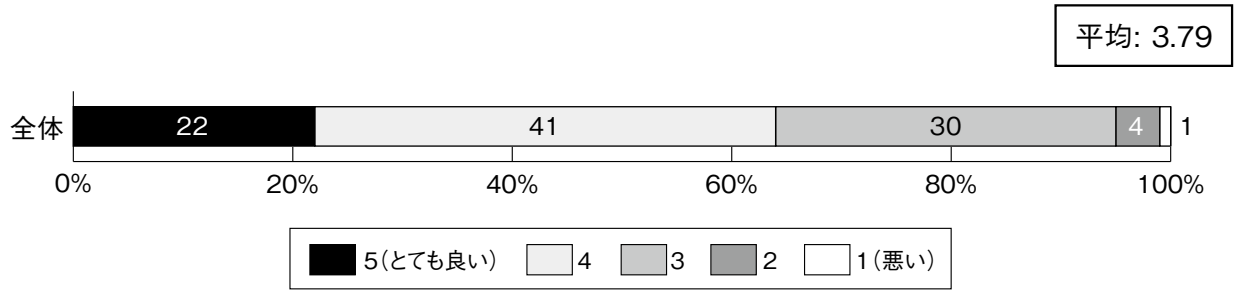
事業全体に関しては、全体平均は4.20で、86％の参加者が４以上（良い）と評価した。

「将来青年国際交流事業に参加するとしたら、どの形式の事業に参加したいですか。」の質問に対して、「1. オンライン交流と対面交流のハイブリッド形式」には43%が４以上（参加したい）、27%が２以下（参加したくない）、「2. オンライン交流のみ」には83%が２以下（参加したくない）、「3. 対面交流のみ」には86%が４以上（参加したい）、と答えた。

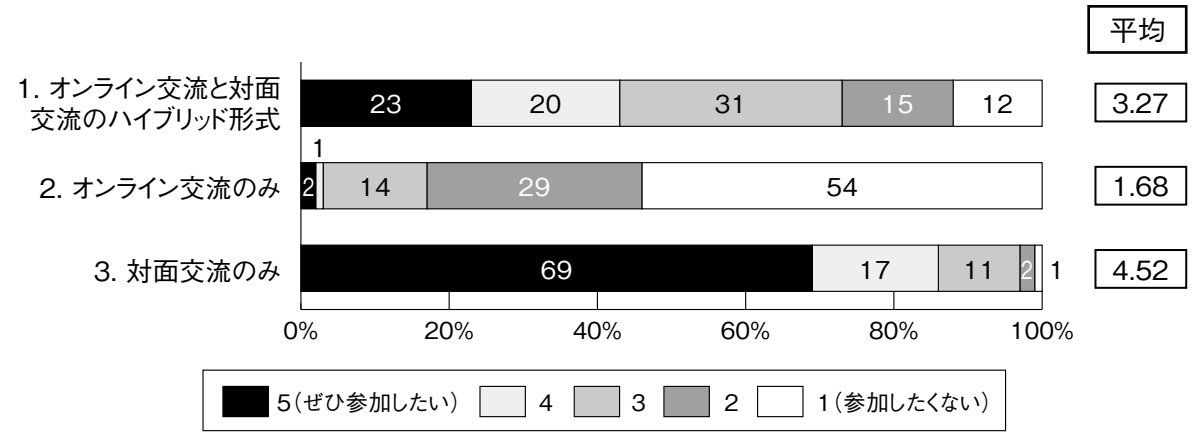
Q. 令和４年度「世界青年の船」事業（ハイブリッド）全体をどう評価しますか。



Q. オンライン交流及び仮想空間における交流をどう評価しますか。



Q. 将来青年国際交流事業に参加するとしたら、どの形式の事業に参加したいですか。
それぞれの項目について回答してください。



Q. ハイブリッド交流プログラムの長所と短所は何ですか。

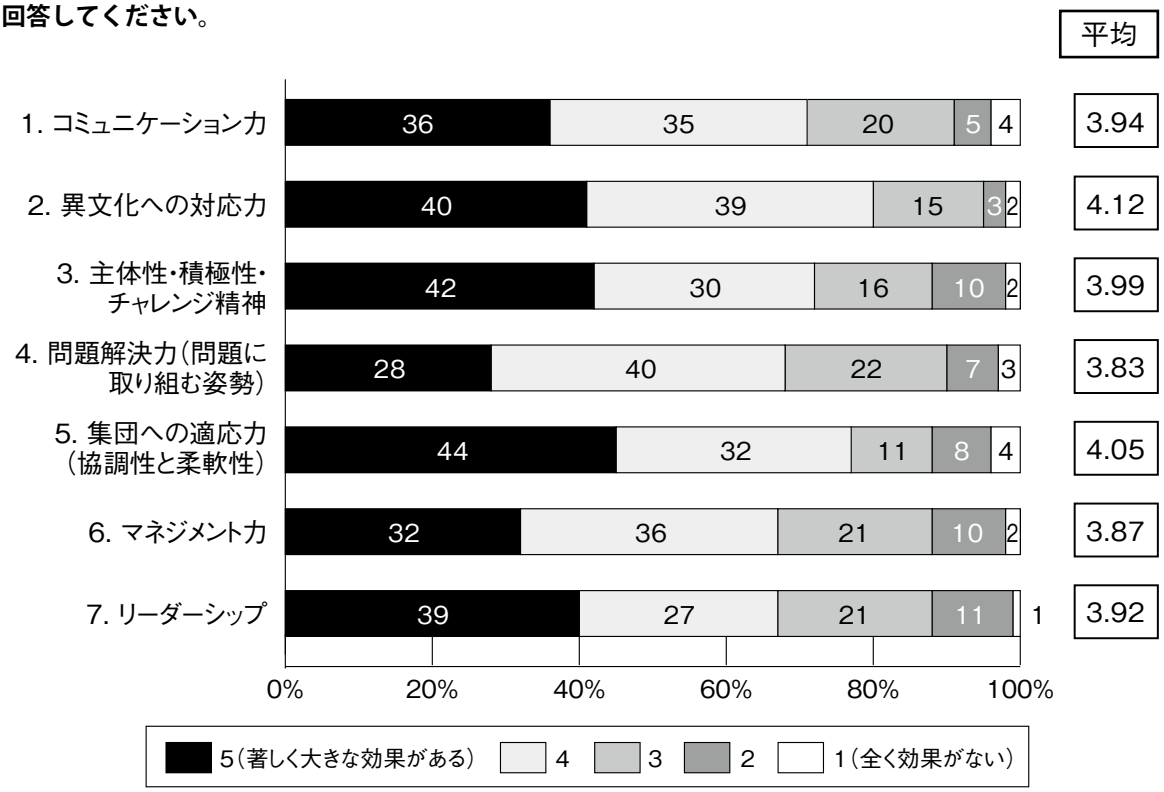
【長所】

・ハイブリッド形式ということで、期待がより高まった。オンライン交流があったおかげで、対面交流がより楽しみになった。
・対面交流の前のオンライン交流で関係性を築くことができたので、対面交流が始まってから時間をかけずにプログラムの中身に飛び込むことができた。
・対面交流の前にお互いのことを知るためには、ハイブリッド形式がふさわしい。
・オンライン交流があったおかげで、対面交流の15日間という短い時間を最大限に活動することができた。
・世界のどこからでも参加できるオンライン交流と、短い期間の対面交流が組み合わされたハイブリッド形式は、日常の多忙な仕事や学業を長く休むことなく参加しやすかった。

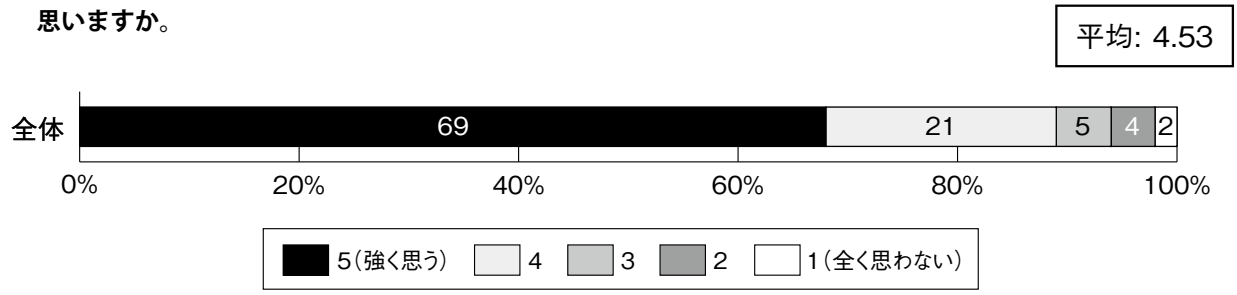
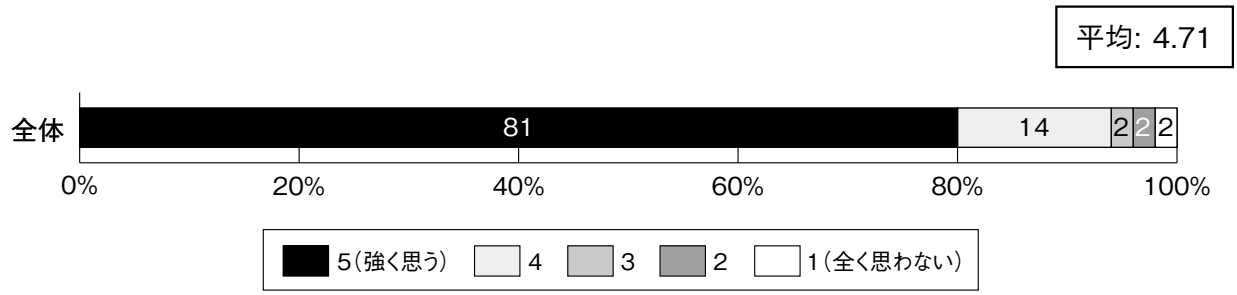
【短所】

・オンライン交流と対面交流の両方があったため、対面交流では短い期間にたくさんの活動があり、スケジュールが非常に忙しくなってしまった。
・オンライン交流では数時間をともに過ごすだけなので、当たり障りのない交流で終わってしまうが、より長い時間を対面で共有することにより、本当の異文化体験ができる。実際に触れあって体験することは、オンラインで体験することとは全く違う。より長い期間を船で体験できたなら、参加者はより大きな影響を受けるだろう。
・オンライン交流では、PYの間の情報の偏りや、プログラムへの思い入れの違いなどがあり、モチベーションを保つのが難しい。
・オンライン交流では、インターネット接続の問題や、時差により、皆が同じ体験をできる訳ではない。

Q. この事業が自己の能力向上にどのように役立つと考えますか。それぞれの項目について回答してください。



Q. この事業が、あなたと各国の人々との相互理解を促進することに貢献していると思いますか。



Q. この事業が、あなたと各国の人々との友情を築くことに貢献していると思いますか。